

研究課題名	誤嚥性肺炎患者における早期胃管挿入による患者への影響について
研究機関名	武蔵野赤十字病院 救命救急科
研究責任者	所属 救命救急科 氏名 田中優希
研究期間	(西暦) 2024年 1月 ~ (西暦) 2025年 3月
研究の意義・目的	誤嚥性肺炎の治療において、入院後数日は胃管の挿入はせずに絶飲食で経過を見ることは多い。これは胃管の挿入が、誤嚥のリスクや嚥下リハビリテーションの妨げになると考えられていることが要因の一つである。しかし、実際に診療していると早期に胃管を挿入しても嚥下リハビリテーションを開始してから嚥下機能回復までの期間には差がないように思われる。本研究は、早期胃管挿入の嚥下機能改善に対する影響、誤嚥性肺炎の転帰に対する影響、再発のリスクになるかを検証することを目的としている。早期胃管挿入が患者の転帰に悪い影響を与えないことが証明されれば、早期経腸栄養による栄養状態の改善や必要な薬剤の投与などが行えるため、誤嚥性肺炎患者の転帰改善にもつながると考えられる。これから超高齢化社会を迎える日本やその他の先進国にとって増加していくであろう誤嚥性肺炎の診療に関する研究が増えることは意味のあることだと考えた。
研究の方法 (対象期間含む)	<p>【研究のデザイン】 通常の診療で既に取得された診療情報を収集、分析する単独・後向き観察研究</p> <p>【予定研究対象者数】 100人</p> <p>【評価・観察の項目及び方法】 患者基本情報：年齢、性別、誤嚥性肺炎患者で口腔外科コンサルトを入られた患者 検査結果：経口摂取開始までの日数、酸素投与が不要になるまでの日数、肺炎に対する抗菌薬の再使用</p> <p>【統計解析の方法】 収集した項目についてEZRを用いて統計解析を行う。</p> <p>【研究の期間】 データ抽出対象期間：2022年12月～2023年11月 研究期間：2024年1月～2025年3月</p>
①試料・情報の利用目的および利用方法 ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③試料・情報の取得の方法 ④利用する者の範囲 ⑤試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	<p>①試料・情報の利用目的および利用方法 上記に記載の通り</p> <p>②利用し、又は提供する試料・情報の項目 患者基本情報：年齢、性別、誤嚥性肺炎患者で口腔外科コンサルトを入られた患者 検査結果：経口摂取開始までの日数、酸素投与が不要になるまでの日数、肺炎に対する抗菌薬の再使用</p> <p>③試料・情報の取得の方法 上記に記載の通り</p> <p>④利用する者の範囲 研究責任者のみ</p> <p>⑤試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称 田中優希、ならびに武蔵野赤十字病院 院長 泉並木</p>
問合せ先	<p>当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ</p> <p>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急科 氏名 田中優希</p> <p>TEL：0422-32-3111（代表）6812（事務局内線） FAX：0422-32-3525</p>